

部下との関係構築 一冊に

市民タイムス
コラムニスト 船坂光弘さん著書発刊

松本市島立のコンサルティング会社サ・ホる。1000社延べ2スピタリティチーム代万人の社員育成に携わ表で、市民タイムスコってきた船坂さんがラムニストの船坂光弘「人が自ら働きたくなる(56)の著書『部下の関係性』を再構築するが自ら働きたくなるためのヒントをまとリーダーシップ』が太めた。



著書を手笑顔を見せる船坂さん

ハラスメントを恐れ、部下と距離を置く「関わらないリーダー」が増えているという。働き方改革やワークライフバランスが重視され「働く時間を減らす」「ストレスをプライベートで癒やす」という発想が先行し「どうしたらもっと仕事を楽しくなるか」という視点が置き去りになっていると懸念する。

若い世代を中心に、働く価値観は「金銭的報酬」から、誰かに感謝される、必要とされる「心の報酬」に変化している」と指摘する。人の心を動かし、関係の質を高める技術として「ホスピタリティ」を挙げ、部下が仕事に楽しさを感じ、生産性も上げるための考え方や行動習慣を詳述した。

疲れ切ったリーダーを見て「自分はリーダーになりたくない」と感じる若者が多いという。「まずはあなた自身に輝いてほしい。嫌われ役でなく、リーダーとしての幸福感を味わってほしい」と願う。

四六判272ページ。1800円(税別)。問い合わせは書店へ。

(高石雅也)